

## 編集後記に代えて

今年は、例年になく冬の到来が早く12月初旬から各地で大雪にみまわれました。編集委員会は“切られなかった桜のその後”と“工事の進みの様子”をレンズで追った歯学部先生方の写真を紹介し、編集後記と致します。

歯学部キャンパスの東南にあり、市内で最も早く開花し見事な満開を誇る桜は、平成16年度第1号に特集として22頁から28頁に4名の先生方により歯学部桜として紹介がありました。この桜は、国道116号線の拡幅計画が歯学部キャンパスに及ぶため、切られるであろうと思われていました。ところが、この桜(4本)は切られることなく、平成16年秋、歯学部キャンパス西南に移植されました。移植された桜は、老桜であろうと考えられるうえ移植の荒療治を受けたので、花はどうであろう?と訝っていましたが、移植先でもみごとな花を見せてくれました。桜が移植された跡地は道路工事が急ピッチで進み、1日毎に景色を変えながら、新しい道路の姿が見えるようになりました。移植された桜の周りは、野面積みの石垣が築かれ、工事が終わると国道脇の小さな桜公園になるものと思われます。

最後に本号に、写真を提供して頂いた野村修一先生に御礼を申し上げます。

(平成17年度2号編集委員会)



風雪に耐える桜



現在進行中の工事の様子



今号の編集後記はいつも春の訪れを真っ先におしえてくれた歯学部構内の桜の花の移転を写真などで紹介させていただき代わりといたしました。

今回も原稿執筆の依頼を快くお引き受けくださった皆様方に厚く御礼申し上げます。何とか期限内に無事発刊できましたことに深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。

平成17年度歯学部ニュース第2号編集担当

五十嵐敦子(摂食・嚥下障害学)

佐久間夕子(口腔保健科予防歯科診療室)

水野 徹(口腔生化学)

丸山 智(口腔病理学)

小田 陽平(組織再建口腔外科学)

## 歯学部ニュース

平成17年度第2号（通算108号）

発行者 新潟大学歯学部広報委員会  
編集責任者 五十嵐 敦子  
編集委員 佐久間汐子、水野 敏、丸山 智、小田陽平  
印刷所 (株)プライムステーション